



在本邦「ビルマ」國特命全權大使「テ」モシ  
外八名敘勳ノ件  
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十九年七月二十六日

内閣總理大臣小磯國昭



内閣

七

22

賞勳局 第三九四

内閣賞勳局 第二二

昭和十九年拾月拾五日勳記第...  
昭和十九年八月...  
昭和十九年七月三十日...

昭和三十九年七月二十三日 内閣書記官長

内閣書記官長

賞勳局

19.7.25

付受

内閣總理大臣



賞勳局總裁



在本邦「ビルマ」國特命全權大使勲二等  
等「テ」モシ「外」ハ名ハ「ビルマ」ニ於ケル皇  
軍ノ作戰竝ニ帝國ノ對「ビルマ」施策ニ  
協力シ日本及「ビルマ」兩國親善關係  
ノ増進ニ貢獻セル功績顯著ナリトス  
仍テ此際外務大臣上奏各頭書ノ通  
叙勲被仰出可然哉此段允裁ヲ仰ク

賞勳局

昭和三十九年七月二十三日

在本邦「ビルマ」國特命全權大使

勳一等旭日大綬章

勳二等（瑞）テ、モ、ン

「ビルマ」國副總理大臣

勳一等旭日大綬章

勳二等（瑞）タキン、ミヤ

同 國協力大臣

勳一等瑞寶章

ウ、トン、オン

同 國內務大臣

勳一等瑞寶章

ウ、バー、ウイン

同 國森林土木大臣

勳一等瑞寶章

ウ、ラ、ベ

裏面白紙

勳一等瑞寶章	同	國物資輸送大臣	タキン、タン、トン
勳一等瑞寶章	同	國國防大臣兼國防軍總司令官	勳三等（旭）タキン、オン、サン
勳一等瑞寶章	同	國宗教厚生宣傳大臣	バンドラ、ウ、セイ
勳一等瑞寶章	同	國大審院長	ウ、ミヤ、ブ

右在本邦「ビルマ」國特命全權大使勳二等「テ、モン」外八名儀別記ノ通日本及「ビルマ」兩國親善關係増進上ニ貢獻セル功績顯著ナル趣ヲ以テ敍勳ノ儀大東亞大臣ヨリ申立有之候ニ付テハ此

外務省

裏面白紙

際右功勞ヲ御表彰被遊頭書ノ通夫々敍勳被仰出候様仕度此段謹テ  
奏ス

昭和十九年七月二十二日

外務大臣 重光



外務省

在本邦「ビルマ」國特命全權大使

テ、イ、モ、ン

マ「ラングーン」及「カルカッタ」ニ於テ醫學ヲ修メ醫學博士ノ稱號ヲ得後政界ニ入り人民黨ヲ結成シテ其ノ領袖トナリ印度議會議員ニ選出セラル 本年五十四才

ニ昭和十三年「ビルマ」下院議員ニ當選シ同年商工大臣ニ任セラレタルモ英國治下ノ統治方針ニ飽足ラス翌十四年「バー・モウ」ト共ニ下野シ同年豫テ憧憬ノ對象タリシ本邦ニ渡來シ滯留約一ケ月半其ノ間本邦ニ對スル認識ヲ一段ト深メ紀元二千六百年紀念論文ノ募集セラルルヤ日本文化ト日本婦人ニ關スル一文ヲ草

外務省

シテ應募セリ其ノ後「バー・モウ」ト共ニ「ビルマ」自由聯盟ヲ結成スルト共ニ英字紙「ニュー・バーマ」ヲ經營シテ「ビルマ」ノ自由獲得ノタメ奔走セリ

三 大東亞戰爭勃發ノ直前英國治下ノ最後ノ議會ニ於テ大膽ナル反英演說ヲ行ヒ同時ニ「ラングーン」ヲ脱出シテ「メイミヨ」ニ隠レ英國官憲ノ拘束ヲ免ル

四 皇軍「メイミヨ」ニ進駐スルヤ逸早く隱家ヲ出テ民衆ヲ指導シテ我ニ協力シ奔走盡瘁我カ作戰ニ寄與スル所尠カラス「ビルマ」戡定ノ後行政府設立セララルヤ財務部長官ノ要職ニ任シ軍政ノ運用ヲ佐ケテ其功亦尠カラス

昭和十八年五月「バーモウ」長官ト共ニ帝國政府ノ招請ニ應ジ  
テ來朝シ「ビルマ」獨立ノ示達ヲ受ケ同時ニ功ニ依リ勳二等瑞  
寶章ヲ授ケラル

同年八月「ビルマ」國獨立ト共ニ財務大臣ニ就任シ同國財政再  
建ノ重責ヲ擔ヒタルガ同年十月同國獨立答禮特派大使トシテ來  
朝シ同國獨立ニ對スル「ビルマ」國國民及政府ノ謝意ヲ表スル  
國書ヲ捧呈シソノ後引續キ初代ノ駐日「ビルマ」國特命全權大  
使トシテ日緬國交ノ要衝ニ當リ「ビルマ」國要人中對日認識ノ  
第一人者トシテ同國ノ對日全面協力ノ促進ニ努メ以テ今日ニ至レリ  
尙客年十一月大東亞會議ニ際シテハ「ビルマ」側隨員トシテ「  
バーモウ」總理ヲ輔ケ會議ノ成功ニ寄與シタリ



「ビルマ」國副總理大臣

タキシン、ミヤ

「タラワデイ」縣ノ出身ニシテ本年四十八才、蘭貢大學在學中  
既ニ反英的色彩ヲ明カニシ、大正九年同大學ノ學生反英運動ニ  
急先鋒タリ、後國民教育刷新機運ニ乗ジ「ミヨーマ」國民高等  
學校ヲ創設シテ副校長トナリ更ニ「ケメンダイン」女子中學ノ  
名譽校長ニ就任セルモ其後再ビ蘭貢大學ニ理學及法學ヲ修メテ  
辯護士ヲ開業セリ

昭和六年「タラワデイ」縣下ノ農民運動首領「サヤサン」ノ裁  
判ニ「バー・モウ」ト共ニ辯護ニ立チタル頃ヨリ政治運動ニ入

リ昭和十一年「タラワデー」縣下ヨリ「タキン」黨公認候補トシテ立チ下院議員トナリ同十四年全「ビルマ」學生同盟休校事件ニ際シテハ英國官憲側ノ措置不當ヲ鳴ラシテ遂ニ辭職セルモ間モナク補缺選舉ニヨリ再選セラル

三 昭和十四年「ビルマ」自由聯盟ノ結成ニ盡力シ同十五年「ビルマ」耕作者協會々長ニ推サレ更ニ同十七年「タキン」黨首トナル同人ノ「タキン」黨内ニ在ルヤ常ニ穩健說ヲ唱ヘ同黨ノ分裂ニ際シテモ正統派ヲ支持シ黨員ノ信望ヲ集メテ之ヲ統率ス

四 大東亞戰爭勃發ノ直後帝國側ノ招請ニ應ジテ盤谷ニ密行シ皇軍ノ進駐ト行ヲ共ニシ終始一貫緊密ナル連絡ノ下ニ「ビルマ」民

衆ヲ指導シテ皇軍ニ協力セシメタリ、昭和十七年八月行政府ノ  
設立ニ際シ副總理格ノ無任所長官ニ推サレ同年十二月内務部長  
官ニ就任シ、帝國側ノ指導ニ即應シテ活潑ナル活動ヲ續ケ十八  
年三月「バー・モウ」長官ト共ニ帝國政府ノ招請ニ應ジテ來朝  
シ功ニ依リ勳二等瑞寶章ヲ授ケラル

其昭和十八年五月「ビルマ」獨立準備委員會組織セラルルヤ「タ  
キン」黨ヲ率ヒテ「バー・モウ」一派ト緊密ニ協力シ同年八月  
獨立ト共ニ副總理ニ就任シ草創期ノ「ビルマ」政府ニ一段ト安  
定感ヲ與ヘツツアリ、同人ハ「タキン」黨ノミナラズ他派ノ間  
ニモ信望アリ現ニ繁多ナル各省政務ヲ總括シ事實上總理ノ職責

裏面白紙

ヲ代行シ居ル状態ニシテ一般ニ「バー・モウ」ノ後繼者ヲ以  
テ目セラレ居レリ

外務省

「ビルマ」國協力大臣

ウ、ト、ン、オン

「アキヤブ」縣ノ出身ニシテ本年五十一才、「カルカッタ」大學卒業後辯護士トナリ傍ラ市參事會員、教育會議長、道路建物委員長等トシテ蘭貢市政ニ參劃スルコト十數年ニ亘リ他蘭貢大學評議員、國民教育會議長等トシテ教育界ニモ重キヲナセリ  
ニ同人ノ政治生活ハ聯合黨ノ代議員トナリタルニ始マリ印度中央議會「ビルマ」代表、印緬分離後蘭貢地方區選出下院議員等ノ經歷アリ又在野聯合黨員トシテ援蔣「ビルマルト」再開反對運動ノ急先鋒タリ

めくれず

裏面白紙

昭和十四年獨英戰爭勃發後「ビルマ」自由聯盟創立ニ當リテハ  
發起人ノ一人トシテ反英ノ鋒芒ヲ顯ハシ殊ニ皇軍ノ「ビルマ」  
進駐後ハ全面的協力ノ努力ヲ惜マズ皇軍ノ作戰ニ寄與スルコト  
尠カラズ、昭和十七年八月行政府設置セラルルヤ之カ司法部長  
官ニ就任シ同十八年ニハ「ビルマ」獨立準備委員會委員トナリ  
昭和十八年八月獨立ト共ニ日本軍ニ對スル戰爭協力ヲ主務トス  
ル協力省ノ首班タル協力大臣トシテ「ビルマ」防衛及對印作戰  
ニ任ジアル皇軍ノ「ビルマ」側ニ對スル物資、勞力ソノ他ニ關  
スル尠大ナル要望ニ應スルカ爲絶大ナル努力ヲナシツツアリ尙  
同人ハ本年四月物資以外ノ日本軍ト「ビルマ」政府トノ協力事

外務省

裏面白紙

項ヲ處理スル戰爭協力第一委員會「ビルマ」側委員長ヲ兼任シ  
日本軍トノ協力ニ盡瘁シ居レリ同人ハ「バー、モウ」國家代表  
ノ信任厚ク終始眞摯ナル態度ヲ以テ對日協力ニ努メ以テ今日ア  
ルニ至レリ

又客年十一月大東亞會議開催ニ際シテハ「ビルマ」代表ノ首席  
隨員トシテ「バー、モウ」總理ヲ輔ケ會議ノ成功ニ貢獻セリ

外務省

「ビルマ」國內務大臣  
ウ、バー、ウイン

「トングー」ニ生レ本年四十七才、大正七年蘭貢大學理科卒業  
後稅務官吏トナリ更ニ昭和四年蘭貢大學法科卒業後辯護士ヲ開  
業ス

ニ蘭貢市會議員、市教育局長、同事務局長等ニ歷任シ、昭和十一  
年聯合黨ヨリ立候補下院議員ニ當選、同十五年蘭貢市長ニ就任  
セルモ同十五年聯合黨ヲ脱シ「バー・モウ」博士ノ傘下ニ投シ  
「シンエタ」黨ニ加入シ同博士ノ入獄中同黨首領ニ推サレ反英  
獨立運動ニ盡瘁セリ、昭和十六年國防法ニ依リ逮捕投獄セラレ  
タルモ皇軍ノ進駐後脱獄シ皇軍ノ「ビルマ」戡定作戰ニ協カス



三 昭和十七年八月行政府教育衛生部長官ニ就任、同十八年五月獨立準備委員會委員トナリ、同年八月獨立ト共ニ内務大臣ニ就任シ、民政ヲ通シ皇軍ノ作戰竝ニ帝國ノ對「ビルマ」施策ニ協力貢獻スル所尠カラステ、今次戰爭ニ於テ大東亞諸民族中戰爭ノ慘禍ヲ最モ多大ニ蒙リタルハ「ビルマ」國民ニシテソノ戰意ヲ昂揚セシメ民生ノ安定ヲ圖ルハ並々ナラヌ苦心ノ存スル處ニシテ同人ハ内務大臣トシテ克ク其ノ職責ヲ果シ來レリ

四 昭和十八年十二月「シヤン」州ノ「ビルマ」領編入ニ際シテハ「シヤン」州總督ヲ兼任シ我方ヨリ行政ノ移管ヲ受クルニ當リテソノ協力的態度ハ特ニ現地軍ヨリ感謝セラレタリ

「ビルマ」國森林土木大臣

ウ、ラ、ベ

「タトシ」村出身ノ「カレン」人、本年三十五才、蘭貢大學卒業、文學士法學士ノ稱號ヲ有スル俊英ニシテ昭和十一年「タトシ」縣ヨリ選出セラレ下院議員トナリ同十四年ニハ「ビルマ」自由聯盟ニ加入「ウーソー」内閣ノ下ニ於テ議會次官トナリタルモ翌十六年退官ス然ルニ同年四月下院副議長トナリ若冠ニシテ而カモ隠然タル勢力ヲ有スルニ至レリ

昭十七年八月行政府設定セラルルヤ商工部長官トシテ皇軍軍政ニ協力シテソノ功勳カラス同十八年三月「カレン」人中央協會委員トナリ「ビルマ」ニ於テハ最モ困難ナル民族問題タル

外務省

ビルマ人「カレン」人間ノ協力融和ニ盡力シ「ビルマ」全土ノ總力ヲ擧ケテ皇軍ニ協力スルノ情勢ヲ馴致ス

同年五月「ビルマ」獨立準備委員會組織セラルルヤ之ガ委員トシテ奔走シ同年八月獨立ト共ニ森林鑛山大臣トナリ十九年四月政府機構ノ改革ニ伴ヒ森林土木大臣ニ就任ス

「カレン」人ハ英國ガ「ビルマ」人ニ對抗セシメントスル意圖ノ下ニ特ニ好遇ヲ與ヘ來レル民族ナルヲ以テ「ビルマ」人ト異リ一般ニ英國ノ壓政ニ對スル反感ヲ有セスソレ丈ニ大東亞戰爭ノ理念及本質等ニ對スル理解モ十分ナラザルモノアリ此ノ間ニ在ツテ同人ノ「カレン」人指導ノ努力ハ誠ニ驚嘆ニ値スルモノ

裏面白紙

アリ、カクテ同人ハ「カレン」人間ニ隠然タル勢力ヲ有スルノ  
ミナラス眞摯ナル協力態度ニヨリ「ビルマ」人トノ關係モ極メ  
テ良好ニシテ「カレン」人及「ビルマ」人ノ融和ニ努力シツツ  
アリ「ビルマ」統一上貢献スルトコロ尠カラス

外務省

107

「ビルマ」國物資輸送大臣

タキン、タン、トン

マ「トングー」縣ノ出身ニシテ本年三十才、資性寡言素朴ナルモ  
實行力ニ富ミ蘭貢大學師範科卒業後蘭貢ノ回教中學校教師タリ  
シコトアリ昭和十一年「タキン」黨ニ參加シ反英文書ノ刊行ニ  
協力シ同十四年「エナンヂヤン」ノ石油工場罷業等ニ關シテハ  
常ニ學生ヲ率ヒテ反英不服從運動ノ指導者タリ  
ニ昭和十四年「ビルマ」自由聯盟創立ニ際シテハ「タキン」黨側  
ノ有力者トシテ活動シ同年全「ビルマ」農耕者協會理事長トナ

ル昭和十五年「タキン、オン、サン」「タキン、バ、セイ」  
「タキン、テー、モン」等ト共ニ印度國民會議全印度大會ニ出  
席、同年末「タラワデー」ニ於ケル「タキン」黨大會ニ於テ  
ハ激烈ナル反英演説ニヨリ國防法ニ觸レテ投獄サレ、十六年一  
度出獄セルモ再ヒ逮捕セラレ皇軍ノ「マングダレー」進駐後、上  
「ビルマ」「モンイワ」監獄ヨリ脱出シ皇軍ニ協力ス

三 昭和十七年八月行政府設立セラルルヤ農務部長官トナリソノ青  
年層ニ有スル信望ニヨリ「ビルマ」農民ヲ指導シテ對日協力ニ  
盡瘁ス、同十八年五月「ビルマ」獨立準備委員會委員トナリ同

めくれず

裏面白紙

年八月獨立ト共ニ農務大臣ニ任ジ本年四月物資運輸省ノ新設ニ  
際シ物資運輸大臣ニ就任ス、物資ノ確保増産及輸送力ノ増強ハ  
「ビルマ」ニ於ケル皇軍ノ作戰ニ關スル協力ノ尤ナルモノニシ  
テ同人ハ「バー、モウ」代表及日本軍ノ厚キ信頼ノ下ニ其ノ獨  
創的企畫ニ依リ其ノ職責ヲ果シ居レリ現ニ同人ハ物資ニ關スル  
日本軍トノ協力ヲ處理スル戰爭協力第二委員會「ビルマ」側委  
員長ヲ兼ネソノ氣鋭ノ熱意ト旺盛ナル實行力ニ依リ日本側ニ對  
シ眞摯ナル協力ヲ續ケンノ功績尠カラス

外務省

めくれず

裏面白紙

「ビルマ」国防大臣兼国防軍總司令官

タキン、オン、サン

「イエナンジャン」縣ノ出身、本年三十才、昭和十三年蘭貢大學文科ヲ卒業更ニ法科ヲ修ム、若クシテ既ニ烈々タル闘魂ヲ以テ反英學生運動ニ參加シ昭和十二年ニハ全「ビルマ」學生聯盟會長トナリ大正十三年ニハ「タキン」黨書記長トナリ十四年ニハ石油工場労働者及學生ヲ指揮シテ反英闘争ヲ展開セリ

昭和十四年「ビルマ」自由聯盟ニ加入シ翌十五年ニハ「タキン・タン・トン」「タキン・テー・モン」等ト共ニ「タキン」黨代表者トシテ印度國民會議派ノ全印大會ニ出席シテ「ビルマ」及全印度民衆獨立ノタメ大イニ氣勢ヲ揚ケ同年密カニ「ビルマ」ヲ脱

外務省



めくれず

裏面白紙

出シテ本邦ニ渡來シ軍事訓練ヲ受ケテ時機ノ到來ヲ窺ヒ居タリ  
三 大東亞戰爭勃發スルヤ「ビルマ」獨立義勇軍ヲ編成シテ皇軍ノ  
「ビルマ」作戰ト共ニ「ビルマ」ニ突入皇軍ノ作戰ニ貢獻スル  
所尠カラズ、十七年七月「ビルマ」獨立義勇軍總指揮官トナリ  
同年八月義勇軍ノ解散竝ニ「ビルマ」防衛軍編成ニ當リ大佐ニ  
任シ司令官トナリ十八年三月少將ニ進級「バー、モウ」長官ト  
共ニ帝國政府ノ招聘ニ應ジテ來朝シ功ニ依リ勳三等ニ叙セラレ  
四 昭和十八年五月「ビルマ」獨立準備委員會組織セラレヤソノ  
委員トナリテ盡瘁シ同年八月獨立ト共ニ國防大臣ニ就任シ新國  
家ノ陸軍建設ニ盡力シ本年四月總司令官ヲ兼任シ爾來同國國防

外務省

裏面白紙

軍ヲ率ヒテ皇軍ニ對シ全面的ニ眞摯ナル協力ヲ行ヒツツアリ特  
ニ今春ヨリ開始セラレタル印緬作戰ニ於テハ「ビルマ」國防軍  
ヲ率ヒ其ノ總司令官トシテ皇軍ト共同作戰遂行ニ邁進シツツア  
リ  
同人ハ軍人及青年層方面ニ厚キ信望アリ隱然タル勢力ヲ有シ居  
レリ

外務省

「ビルマ」國宗教厚生宣傳大臣

バンドラ、ウ、セイ

「マンドレー」縣ノ出身ニシテ本年四十八才、若年ノ頃寺院ニ生活シ佛典及文學ヲ研鑽シ後蘭貢ニ出デ年十九才ニシテ「ニユ  
ー、ライト、オブ、バーマ」紙主筆トナリ又著作ヲ發表シテ少  
壯文筆家トシテ著ハル





ニ大正九年頃ヨリ政治運動ニ關與シ「バー、モウ」博士ノ主張ニ  
共鳴シ印度分離反對聯盟ニ加入シテ英國殖民政策ニ對スル反抗  
ヲ續ケ昭和十一年ニハ「バー、モウ」博士ノ「シンエタ」黨ニ  
入り其ノ幹事長タルト共ニ他面自ラ週刊雜誌「バンドラ」及ビ

日刊「バンドラ」紙ヲ創刊主宰シテ活潑ナル反英、獨立運動ヲ開始セリ

三 昭和十四年九月「ビルマ」自由聯盟結成セララルヤ委員トシテ各地ヲ遊説シ大イニ「ビルマ」民心ヲ激發シテ獨立反英ノ氣運ヲ昂揚ス、昭和十五年七月「マングレー」ニ於ケル「シンエタ」黨大會及十六年一月蘭貢「シユエ、ダゴン、バゴダ」ノ國民大會ニ於ル演説ハ何レモ激烈ヲ極メ遂ニ國防法ニ觸レテ檢舉投獄セララル

四 昭和十七年二月出獄スルヤ皇軍ノ進駐ヲ迎へ「バー、モウ」博士ト呼應シテ之ト協力シ同年八月行政府ノ開設ヲ見ルヤ土木復

# 訂 正

訂正理由	撮影ミスの為
訂正箇所	直前の / コマ取消 / コマ再撮影
訂正年月日	平成 20 年 10 月 10 日
このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。	
撮影者	田島 清治  
受託責任者	東京都港区西麻布2丁目26番30号 富士フィルム株式会社 産業機材部長 後藤 佳久  

めくれず

裏面白紙

日刊「バンドラ」紙ヲ創刊主宰シテ活潑ナル反英、獨立運動ヲ開始セリ

三 昭和十四年九月「ビルマ」自由聯盟結成セララルヤ委員トシテ各地ヲ遊説シ大イニ「ビルマ」民心ヲ激發シテ獨立反英ノ氣運ヲ昂揚ス、昭和十五年七月「マンダレー」ニ於ケル「シンエタ」黨大會及十六年一月蘭貢「シユエ、ダゴン、バゴダ」ノ國民大會ニ於ル演説ハ何レモ激烈ヲ極メ遂ニ國防法ニ觸レテ檢舉投獄セララル

四 昭和十七年二月出獄スルヤ皇軍ノ進駐ヲ迎へ「バー、モウ」博士ト呼應シテ之ト協力シ同年八月行政府ノ開設ヲ見ルヤ土木復

外務省

興部長官ニ任命サレ英軍ノ焦土戰術ニ依リ破壊セラレタル「ビ  
ルマ」各地ノ公共施設ノ復興ニ盡力シ軍政ニ貢獻スルトコロ  
カラズ、翌十八年五月「ビルマ」獨立準備委員會委員トナリ同  
年八月獨立ト共ニ宗教厚生宣傳大臣ニ就任シ「バー、モウ」國  
家代表ノ片腕トシテ敵側ノ熾烈ナル反日宣傳謀略ニ對抗シテ「ビ  
ルマ」民衆戰意昂揚ニ努力シ「ビルマ」民心ノ安定竝ニ對日全  
面協力ノ態勢ヲ強化セル功勞カラス

裏面白紙

「ビルマ」國大審院長

ウ、ミヤ、ブ

「蘭貢」ケメンダイシ」區ノ出身、本年五十九才大正元年蘭貢大學ヲ卒業後英國ニ留學シ「パリスター」ノ資格ヲ得テ歸緬シ辯護士ヲ開業セリ

大正十五年高等法院判事ニ任命セララルヤ當時法曹界ノ多數ヲ占ムル英國人ニ互シテ次第ニ頭角ヲ現ハシ、ソノ學識力量ヲ認めラレ英領時代三權分立主義ノ自治的機構ニ於テハ總理大臣ニ次ク要職タル高等法院長ノ職務代行ヲ命ゼラルルコト數次ニ及ビ更ニ昭和十三年ニハ蘭貢大學副總長ニ推サレ「ビルマ」人中

外務省



有數ノ法學者タリ

ニ大東亞戰爭勃發ノ後、英國官憲ノ懲滯ヲ却ケテ敢然トシテ印度逃避ヲ拒否シ、皇軍ノ進駐ヲ迎ヘテ之ト協力ス、昭和十七年八月行政府設置セララルルヤ之が大審院長ヲ命ゼラレンノ學識經驗ヲ活用シテ戰禍ノ後ノ治安秩序ノ維持ニ盡カシ十八年五月「ビルマ」獨立準備委員會設立セララルルヤ其ノ委員トシテ「ビルマ」獨立ノ法律的諸問題ノ審議、國家基本法ノ立案等ニ盡力セリ同年八月「ビルマ」國獨立ト共ニ大審院長ニ就任シ、新生「ビルマ」國ノ司法部ノ長トシテ新國家ノ法令ノ權威ヲ維持シ治安ノ確立ニ努メ我方トノ關係ニ於テモ軍政廢止ニ伴フ各種法律の案

裏面白紙

件及獨立後「ビルマ」國ニ於ケル日本軍及日本人ニ關スル法律  
上ノ諸問題ノ解決ニ努ムル等多大ノ功績アリ

外務省

秘

内閣入外敷第二二號

儀祕第二四九號

昭和十九年七月二十二日

外務大臣 重光

内閣總理大臣 小磯 國 昭 殿

在本邦「ビルマ」國特命全權大使「テー、モン」  
外八名敍勳ノ件

在本邦「ビルマ」國特命全權大使勳二等「テー、モン」外八名敍  
勳ノ儀別紙ノ通上奏致候間至急可然御取計相成度此段申進候也



120

裏面白紙

外務省

1. Thein Maung.
2. Thakin Mya.
3. U Tun Aung.
4. U Ba Aun.
5. U Hla Pe.
6. Thakin Phan Tun.
7. Thakin Aung San.
8. Bandoola U Sein.
9. U Mya Su.

外  
務  
省

日本領事館 55 年 1 月 1 日

121

裏  
面  
白  
紙